戸崎石幢

朝地町市万田　昭和54年5月15日指定

戸崎区大師堂近くに所在し、総高は 236cm で、平面は方形の石幢です。幢身（どうしん）に墨書による文安 5（1448）年の紀年銘があります。龕部（がんぶ）には六地蔵と十王 2 体が薄く彫りだされ、赤・白・黄などの彩色が残っています。

長寿庵五輪塔（二）

大野町長畑　昭和49年3月19日指定

小切畑地区長寿庵の東に 2 基並んでいる五輪塔です。右の塔は総高 225cm、左は 186cm で、両方とも完形で正平 11（1356）年の紀年があります。銘文からそれぞれ尼覚澄、沙弥浄覚の生前供養、いわゆる逆修塔であることがわかります。



長寿庵五輪塔

表宝篋印塔（三）

大野町中土師　昭和49年3月19日指定

河面地区の墓地にある 3 基の宝篋印塔で、相輪上部を欠損しています。うち一基は貞和 2(1346) 年銘、もう一基には建徳 2（1371）年の銘があります。残る 1 基には銘はないものの建徳年銘の塔と同形式同手法で作られており、夫婦の逆修塔とも考えられています。

表五輪塔（二）

大野町中土師　昭和49年3月19日指定

大野町河面地区の山中に多く所在する五輪塔群です。最大のものは総高 139cm にもなります。そのうちの完形の 2 基に正平 23（1368）年の同じ月日の銘をもつことから、2 基同時に造立されたものと考えられます。

三徳石幢

大野町夏足　昭和49年3月19日指定

津留区公民館裏の山頂に所在する、総高 230cm、平面観方形の石幢です。享禄 3（1530）年の逆修塔で、六地蔵と十王 1 体（閻魔大王？）を龕部（がんぶ）に刻み、幢身の各面上部に月輪と金剛界四仏の種子が彫られています。

上津（あげつ）神社一ノ鳥居

大野町片島　昭和52年3月31日指定

上津神社裏山の旧境内への登山道に所在する鳥居です。額束に寛正 3（1462）年の銘があり、全体的に丈が低くて材が太く、笠木・島木とも反りがなく古式を呈しています。

平尾社鳥居

千歳町新殿　昭和33年3月25日指定

横尾地区の通称原にある平尾社の鳥居で、本殿から約 1km ほど離れた位置にあります。八角の柱を持つ珍しいもので、観応 2（1351）年造立以後、これまで 4 回の修理記録が柱に刻まれています。柱など順次取り替えられながら当初の形を守っているとみられています。



平尾社鳥居

石造五輪塔（二）

千歳町新殿　昭和45年3月31日指定

新殿楢木野の大乗寺跡に五輪塔 2 基が並んでいます。向かって左側の塔は「阿闍梨澄円」の門弟たちによる逆修塔で貞和 3（1347）年銘があります。向かって右側の塔は、玄悳(徳) の墓碑とみられ延文 6(1361) 年の銘があります。

石造宝塔（平尾社宝塔）

千歳町新殿　昭和33年3月25日指定

新殿にある平尾社境内にある宝塔で、相輪上部端を欠失しています。塔身の銘文により暦応3(1340)年、法華経の経典2部を奉納したことが記されています。

柴山石幢

千歳町柴山　昭和49年3月19日指定

柴山の宅地内に所在する天文2（1533）年造立の石幢で、総高は217cmです。四角柱の幢身に中台をのせ4面に2体ずつ配した六地蔵の龕部に肉厚で円形の笠をのせています。銘文には「海部郡柴山村」の文字が見え、当時この地域が海部郡に属していたことがうかがえる貴重な資料でもあります。

高添石幢

千歳町長峰　昭和49年3月19日指定

高添地区の共有林に所在し、総高210cm、永禄4（1561）年の銘を持つ石幢です。四角柱の幢身に中台をのせ4面に2体ずつ配した六地蔵の龕部に肉厚で円形の笠をのせています。逆修塔であり「道明禅門」「妙西信女」の供養のために造立されました。

新飼宝塔（二）

犬飼町黒松　昭和50年3月28日指定

犬飼町黒松にある宝塔2基で、総高は235cmで共にほぼ同じ形式です。貞治6（1367）年逆修のために造立された銘があり、大きい方は「仏子・正善」小さな方は「比丘尼・仁正」が願主となっており、夫婦で供養のために建立されたと考えられています。

大聖寺宝篋印塔

犬飼町柴北　昭和50年3月28日指定

大聖寺境内にある総高262cmの宝篋印塔です。貞治5（1366）年の紀年銘を持ち、非常に均整の取れた塔で、その作風の特徴は当時豊後大野一帯で活躍した石工「玄正」の作と推定されています。



大聖寺宝篋印塔

宮脇宝塔

犬飼町黒松　昭和52年3月31日指定

黒松区阿蘇神社に隣接して所在する、総高253cmの宝塔です。壺形の塔身には納経のための小孔が穿たれています。江戸時代の書物「豊後国志」では大友親綱の墓と紹介されていますが、親綱の没年より百年以上古い貞和4（1348）年銘のため、疑問が持たれています。

藤ノ木石幢

犬飼町高津原　昭和58年4月12日指定

高津原区墓地に所在する総高210cmの石幢です。幢身は面取りした角柱で、やや小ぶりな円形の龕部には六地蔵と十王2体が彫られ、大きな笠をのせています。笠は2段の軒口に垂木を施し、笠裏には応永12（1405）年の墨書銘があります。

(4)大分県指定有形文化財:美術工芸品

絹本彩色弘法大師画像

三重町内山　昭和52年3月31日指定

蓮城寺に所蔵されている絵画で、右手に五鈷杵を持ち、左手を膝上において念珠を爪繰り、牀座に坐するなど典型的な真如親王筆様の図像で、日本仏画の伝統的な技法による彩色法が認められます。表現に形式化があるものの保存状態はよく、14世紀後半の製作と考えられています。

木造阿弥陀如来坐像

三重町赤嶺　昭和33年3月25日指定

市辺田八幡社境内の阿弥陀堂に安置されており、像高 261cm の巨像です。樟材を使用した寄木造で、頭部と体部の根幹部は鎌倉時代末期頃の製作と推定されていますが、両肩先から膝前部にかけては近世の後補と思われます。神仏混合で同境内にあった神宮寺より移転されたと伝えられています。

木造大威徳明王像

三重町松尾　昭和33年3月25日指定

吉祥寺に安置されており、像高は 91cm で、桧材の寄木造りで内刳りを施します。六面六臂六足の多臂像で、正面を向いた臥牛の上にまたがります。牛の胎内銘により鎌倉時代の弘安 7（1284）年大仏師覚昭の作で、三重郷地頭（安達泰盛）や広福寺院主及び同遍照を願主としていることが分かります。三重郷地頭及び仏法の興隆祈願、さらに元寇の脅威に対する戦勝祈願のため奉納されたと推定されます。

吉祥寺木造不動明王立像

三重町松尾　平成元年3月30日指定

吉祥寺に安置されており、像高は 117.0cm、桧材の寄木造りです。眼は彫眼で、像容は鎌倉時代後期の作風を残しています。その像容は不動明王像の定型に則ったもので、中央仏師の手による作と見られます。鎌倉時代後期の 13 世紀後半頃の、大威徳明王像と同一の作者による製作とみられています。

蓮城寺木造薬師如来三尊像

三重町内山　平成6年3月25日指定

蓮城寺薬師堂の中央に主尊の薬師如来坐像及び脇侍の日光・月光両菩薩坐像が安置されています。像高は主尊が 164.7cm、右側の日光菩薩が 145cm、左側の月光菩薩が 146cm でいずれも桧材寄木造の漆箔像です。主尊の彫眼に対し、両脇侍は玉眼嵌入です。像容から三尊とも鎌倉時代の作と推定されていますが、須弥壇・台座は後補で、主尊の光背も後補です。



蓮城寺木造薬師如来三尊像

中尾区木造如来形立像

三重町久田　平成6年3月25日指定

中尾区釈迦堂と呼ばれる小堂にあり、像高 165.5cm、彫眼彩色像で檜材の一木造りです。作風より平安時代後期の作とみられ、木彫仏では市内でも最古級に属すものです。左手に薬壷を持っているため薬師如来像といわれてましたが、明治時代に修理された際の後補と考えられ、本来は釈迦如来像とみられます。その他両足先、光背等も後補です。以前は旧大楽寺の本尊であり、江戸時代に現大分市植田へ大楽寺移転の際現在地に安置されたと伝えられています。

蓮城寺千体薬師像

三重町内山　平成8年3月29日指定

蓮城寺薬師堂の薬師三尊像の両脇に並んで安置されています。総数は 1008 体と伝えられますが、実際は 998 体で、総高は約 80cm、像高は約 65cm とすべて同様の法量で統一されています。大部分は桧材ですが、他に樟・カヤ・キリ材もみられます。技法について多くは寄木造りですが、その作風にも違いがみられるため、複数の仏師集団による制作と考えられます。室町時代の作と推定され、経緯や作者については不明ですが、同様のものは全国的に例がなく貴重な作品といえます。

大渡石造地蔵菩薩像

緒方町越生　昭和50年3月28日指定

像高 66cm で凝灰岩角柱の正面に地蔵菩薩像が彫られていますが、上半身はやや肉厚にあらわし、下半身は線刻で刻むなど技法に変化を持たせています。銘文により永享 2（1430）年に願主道恵により作られたことがわかります。裏面にも線画が施され、地元では両面地蔵と呼ばれています。

木造如来形坐像

緒方町軸丸（元）　昭和52年3月31日指定

緒方町軸丸南の熊野社に安置されていた丈六の木造仏で、印相を欠失しているためその尊名は不明です。頭部から体幹部にかけて樟一材で彫成され、背面に内刳りを施し、立体感のある造りは古式の様相を有しており、平安後期の作と推定される優品です。現在は、保存のため豊後大野市資料館内に安置されています。

木造不動明王坐像残欠

緒方町軸丸（元）　昭和52年3月31日指定

緒方町軸丸南の熊野社に安置されていた丈六の不動明王像です。瞋目、半眼の天地眼で唇をかみ上下牙を現します。頭部から体幹部にかけて桧一材で彫成され、躰部に内刳りを施します。両手両足を欠失していますがまれに見る巨像で、平安後期作と推定される優品です。現在は、保存のため豊後大野市資料館内に安置されています。

伊丹家刀

個人蔵　　昭和58年4月12日指定

長さ 69.6cm、反り 1.2cm で、江戸時代初期の延宝 7（1679）年 2 月、大分市の高田付近の刀工藤原行房による作の豊後刀です。

伊丹家刀

個人蔵　平成2年3月29日指定

長さ 70.4cm、反り 2.5cm で、江戸時代の貞享 2（1685）年 8 月に藤原忠行による作です。大分市の古国府付近の刀工で、豊後刀の特徴を備えた優品です。

太刀（豊州甲斐本藤原行久）

個人蔵　平成13年4月13日指定

長さ 129.8cm、銘文により安土桃山時代の天正 13（1585）年 8 月に、三重町中尾に居住した甲斐（賀井）本鍛冶の藤原行久の作であることが分かります。中世の甲斐本鍛冶は戦国大名大友氏の御用鍛冶であり、当時島津氏との抗争における緊張下の元で製作された奉納刀と推定されています。

薙刀（平鎮教）

個人蔵　平成15年3月31日指定

長さ 59.4cm の薙刀で、平高田の作風です。大友宗麟公の娘が嫁入りの際に持ち込まれたものと伝えられています。作者は銘から「平鎮教」と判断でき、室町時代後期の作と推定されています。

薙刀（豊後国大野住人藤原行家）

個人蔵　平成15年3月31日指定

長さ 66.7cm で、三重町中尾の地に居住した甲斐本鍛冶の藤原行家による、江戸時代初期の寛永 2（1625）年の作です。行家は藤原行久の子で、行長の弟といわれています。

経筒

緒方町上自在（元）　昭和42年3月31日指定

平安時代後期の永久 3（1115）年、願主が経典を埋納する容器として使われた経筒で、総高 38.5cm です。宝暦 8（1758）年に三宮社付近で経筒出土の報告を受けた岡藩八代藩主中川久貞公は、「父母孝養」の銘文に感激し、三宮社境内に記念碑を建立しました。現在は、保存のため豊後大野市資料館内で保管されています。



経筒

経筒 附天蓋

緒方町大化（元）　昭和42年3月31日指定

天明 2（1782）年に大行事八幡社から発見された